

2005年のねじ産業に関する報告

Report for Fastener Industry in 2005

2005年10月

Oct. / 2005

【18】イワタボルト®

SOFI Series —————
Report for Fastener Industry in 2005
25, October, 2005
Planning Section, IWATA BOLT Co., Ltd.

SOFI シリーズ —————
2005年のねじ産業に関する報告
2005年10月25日
編集・作成 イワタボルト(株)社長室

2005年のねじ産業に関する報告

2005年10月

機械工業製品の生産や各種構造物などあらゆる分野にわたって使用される鉄鋼の需要はこの数年着実な増加をみせており、我が国の粗鋼生産は2000年以降は1億トン超を維持しながら推移しています。昨2004年の粗鋼生産では前年比2.0%増の1億1,271万トンとなり、2005年上半期（1～6月）についても前年同期比1.6%増の5,672万トン強と引き続き上向いています。また、2004年における世界粗鋼生産も前年比8.8%増の10億5,000万トン（国際鉄鋼協会発表）と初めて10億トンの大台に達しました。最近の中国の鋼材消費の大幅な伸びも背景にあります。世界的な鉄鋼需要の拡大が進んでいるということでしょう。ただ中国の粗鋼生産は05年上期1億6,400万トンと半期ベースで過去最高となり、国内需要の伸び悩みと供給過剰の状況で、輸出にどう向けるかが課題となっているようです。

我が国の鉄鋼需要は堅調な自動車生産に加えて造船や工作機械ほか機械工業製品の生産回復に伴い拡大していますが、この鉄鋼需要の増伸は我が国の機械工業における生産活動の上昇を裏付けていると言えます。ねじ需要を支える柱のひとつである自動車の生産は同報告書の後編に資料を載せてありますが、2004年は前年比2.2%増の1,049万台と伸びており、2005年上半期（1～6月）実績も前年同期比3.3%増547万台強と堅調に推移しています。また、民間設備投資の動向も平成17年度計画は前年度比14.0%増（経済産業省調査）と、自動車、化学、鉄鋼はじめ電機・電子機械、一般機械などにわたって意欲的な投資計画が見込まれています。何れも生産能力の増強を目的とした投資に重点がおかれていますが、こうした動向を反映して工作機械の生産台数も2004年実績は前年比19.6%増、今年上半期についても前年同期比17.7%増と旺盛な生産状況を示しています。電気製品、IT関連製品は品目によって生産動向に差があり、しかし、液晶テレビやプラズマテレビといった成長商品も台頭しています。

このような産業活動のもとに鉱工業生産指数（平成12年＝100、季節調整済）の動向をみると、平成16年第1四半期（1～3月）98.7、第2四半期（4～6月）100.8、第3四半期（7～9月）100.7、第4四半期（10～12月）99.8、平成17年第1四半期101.5、第2四半期101.1と推移し、この7月は100.0ですが、8月は101.2と上昇しています。また、経済産業省の製造工業予測調査では9月も引続き3.0%の上昇

を、10月は0.4%の低下の見込みとなっています。

しかし、原材料である鋼材価格の相次ぐ大幅上昇が、ねじ企業の経営を圧迫し供給責任を果していくうえで業界の最大課題となっています。このため、ねじ業界のメーカー及び商業者団体では納入先のユーザー各社に対する“取引条件適正化のお願い”文書を作成、窮状の理解とコスト大幅上昇に伴うねじ製品価格の値上げをお願いしているのが実情です。これに加えて最近の原油価格の著しい高騰がさらに産業界に影響を及ぼしており、景気回復の先行きを懸念する声も強まっています。この原材料等の最近の高騰は、ねじ製品価格に大きな影響を与えており、価格転嫁をどこまで実現できるのかが需要家からのコストダウン要請とともに厳しい課題となっています。

さらには、ねじ需要の一大産業である自動車工業の海外展開と一段の現地生産強化に伴う我々ねじ産業への影響も見逃ごせない動きとなっており、こうした自動車や家電等の海外生産移転に伴うねじ業界の対応すべき課題は少なくないのが現状といえます。

ねじ需要産業のこうした海外進出の動向に対しては、イワタボルトは予てより世界の主要な地域において製造及び販売の拠点を設立し、現地におけるユーザー各社に直結したサービスの提供を展開しているところです。海外製造拠点としては中国^{シンセン}深圳工場、米国ロサンゼルス工場、シンガポール工場があり、海外販売拠点では口



岩田螺絲（深圳）有限公司全景。左奥の建物が第2期工場として竣工した増築棟めっきライン工場

サンゼルス，オハイオ，ナッシュビル，アトランタ，カナダ，メキシコ，香港，上海，深圳，タイ，マレーシアにそれぞれ設立しています。

中国深圳工場〔IWATA BOLT (SHENZHEN) CO., LTD. = 岩田螺絲（深圳）有限公司〕は2004年7月に第一期工事を完了し本格稼働を開始しましたが，工場用地の規模は32,000平方メートルで，第一期工事面積として3,500平方メートルを完成。引き続き第二期工事として建設面積約4,000平方メートル規模の工事を進めていましたが，この05年8月に完了の運びとなり稼働に入りました。

第一期工事では高速ヘッダー，高速ローリングマシン，連続浸炭熱処理炉，関連設備および各種試験検査機器一式を設備して稼働しましたが，今回の第二期工事ではめっき及び関連装置の最新鋭設備を導入してライン化を実現しました。おもな新設装置は，コンピュータ制御による完全自動化3価クロム専用電気亜鉛めっきライン（インライン・ベーキング）で，RoHS，ELV指令を完全クリアしためっき製品の製造ラインです。また，リサイクル廃水処理設備，発電設備，蛍光X線膜厚計，塩水噴霧試験装置（6価クロム分析用の紫外可視分光光度計は既設）などの最新機器装置も導入し，完全一貫生産体制を敷くことで品質の安定と向上について一段と強化を図ったものです。

イワタボルトはこれらの海外拠点と，国内の栃木工場，それに全国27拠点の営業網とを合わせて国内外の多くのお得意先各社に万全のサービスをご提供しています。

1 ねじの生産と出荷

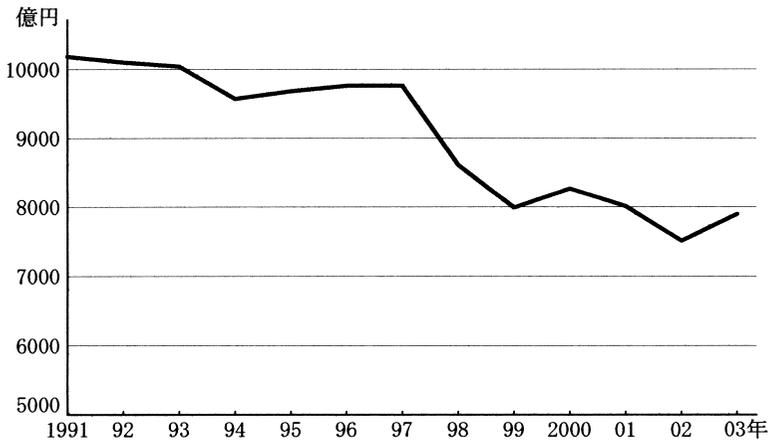
ねじの生産・出荷は前期のような産業動向のもと，2002年を底に2003年は再び増加に転じ，2004年も生産数量および生産金額ともに前年比プラスを示し，今年2005年に入っても増進の傾向で推移しています。

先ずはじめに，このほど発行された経済産業省の平成15年工業統計表により，ねじ産業（製造業）の動向をみると，平成15年（2003年）は前年比，事業所数，従業員数，出荷額および付加価値額ともに何れも増加となっています（4人以上事業所，表1）。しかし，3人以下を含む全事業所数でみた場合は前年比減少しており，つまり4人以上規模の事業所数は増えたが，3人以下の事業所数は減少したことが示されています（表2）。この全事業所統計では，事業所数は4,224事業所で前年比5.8%減に，従業員数は同1.0%増の42,200人，出荷額は同5.3%増の8,142億4,500万円となっています。出荷額は，8千億円台に再び回復した年となりました。

なお，同統計調査は4人以上事業所がベースとなっており，また4人以上事業所における出荷額が全事業所出荷額の97%前後を例年占めていますので，ここでは表1の4人以上事業所についての統計を中心にみることにします。

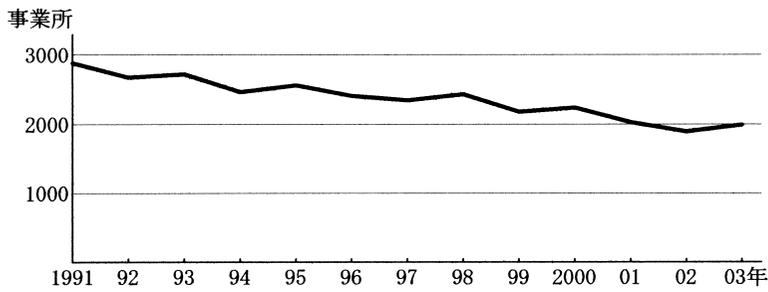
ねじ出荷額の推移：4人以上事業所（1991年がピーク）

グラフ - 1



事業所数の推移：4人以上事業所（1991年以降）

グラフ - 2



従業員の推移：4人以上事業所（1991年以降）

グラフ - 3

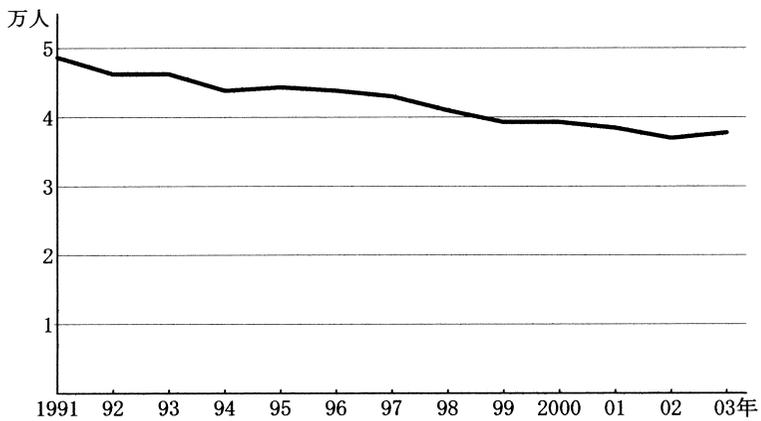


表1 ねじ産業5年間の推移（従業員4名以上，工業統計表産業編より）（出荷額・付加価値額＝百万円）

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年
事業所数	2,176	2,239	2,028	1,892	1,989
%	100.0	102.9	93.2	86.9	91.4
従業員数	39,298	39,634	38,451	36,971	37,774
%	100.0	100.9	97.8	94.1	96.1
出荷額	798,717	826,796	800,947	751,656	789,992
%	100.0	103.5	100.3	94.1	98.9
付加価値額	366,104	387,833	370,167	350,017	377,984
%	100.0	105.9	101.1	95.6	103.2

表2 ねじ産業5年間の推移（全事業所，同産業編より）（出荷額＝百万円）

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年
事業所数	4,825	4,821	4,500	4,482	4,224
%	100.0	99.9	93.3	92.9	87.5
従業員数	44,849	44,932	43,548	41,764	42,200
%	100.0	100.2	97.1	93.1	94.1
出荷額	826,890	858,319	826,624	773,540	814,245
%	100.0	103.8	99.9	93.5	98.5

表3 ねじ産業の推移（出荷額ピークの1991年以降，4人以上事業所）

年	事業所数	%	従業員数	%	出荷額(百万円)	%
1991	2,882	100.0	48,653	100.0	1,179,713	100.0
92	2,676	92.9	46,236	95.0	1,100,448	93.3
93	2,720	94.4	46,212	95.0	1,033,690	87.6
94	2,465	85.5	43,819	90.1	957,742	81.2
95	2,561	88.9	44,361	91.2	968,054	82.1
96	2,410	83.6	43,962	90.4	975,860	82.7
97	2,343	81.3	43,019	88.4	976,019	82.7
98	2,429	84.3	40,971	84.2	861,145	73.0
99	2,176	75.5	39,298	80.8	798,717	67.7
00	2,239	77.7	39,634	81.5	826,796	70.1
01	2,028	70.4	38,451	79.0	800,947	67.9
02	1,892	65.6	36,971	76.0	751,656	63.7
03	1,989	69.0	37,774	77.6	789,992	67.0

平成15年における4人以上事業所の統計では，事業所数は前年比5.1%増の1,989事業所をかぞえ，従業員数は同2.2%増の37,774人となり，出荷額では同5.1%増の

表4 品種別出荷状況（従業員4名以上，工業統計表品目編による）

（出荷量トン，出荷額百万円）

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	
ボルト・ナット	量 %	2,178,988 100.0	2,211,565 101.5	2,146,477 98.5	1,982,388 91.0	2,018,760 92.6
	額 %	529,462 100.0	553,758 104.6	539,619 101.9	518,846 98.0	539,311 101.9
小ねじ・木ねじ	量 %	249,960 100.0	289,650 115.9	256,161 102.5	214,084 85.6	228,010 91.2
	額 %	101,138 100.0	103,282 102.1	89,977 89.0	80,387 79.5	87,244 86.3
リベット	量 %	96,101 100.0	66,056 68.7	80,040 83.3	71,381 74.3	72,979 75.9
	額 %	23,971 100.0	25,965 108.3	25,142 104.9	24,024 100.2	25,510 106.4
座金	量 %					
	額 %	24,404 100.0	23,563 96.6	24,114 98.8	21,682 88.8	26,424 108.3
関連製品	量 %					
	額 %	97,223 100.0	108,535 111.6	104,376 107.4	97,413 100.2	103,243 106.2
合計	量 %	2,525,049 100.0	2,567,271 101.7	2,482,678 98.3	2,267,853 89.8	2,319,749 91.9
	額 %	776,198 100.0	815,103 105.0	783,228 100.9	742,352 95.6	781,732 100.7

7,899億9,200万円を示しました。同様に付加価値額についても同8.0%増の3,779億8,400万円に回復しました（付加価値額は，生産額から内国消費税額と原材料使用額など及び減価償却額を差引いた額）。

また，この平成15年における4人以上事業所のねじ製造業が，我が国ねじ工業の中でどのような位置付けになっているのかをみますと，事業所数では全事業所のうちの47.1%の割合であり，従業員数になると89.5%の高い比率で，さらに出荷額については97.0%と極めて高い比率を占めています。これを前年と比較した場合，事業所数では4.9ポイント増，従業員数では1ポイントの増で，出荷額については0.2ポイントのマイナスとなっています。4人以上事業所の占める出荷額比率は年によ

表5 ねじの年別生産推移

単位：生産量トン，出荷額百万円（社）日本ねじ工業協会資料より）

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	04 / 03%	
ボルト	量	1,502,834	1,435,562	1,426,008	1,523,807	1,669,042	+9.5
	額	329,213	308,706	306,914	326,199	357,064	+9.5
ナット	量	774,582	771,432	807,960	795,995	851,978	+7.0
	額	207,748	205,566	220,694	222,536	239,551	+7.6
小ねじ	量	318,902	293,624	291,368	279,334	291,969	+4.5
	額	122,772	106,311	98,914	96,270	102,693	+6.7
木ねじ	量	7,352	6,817	6,077	6,640	6,641	0.0
	額	3,352	3,147	2,749	2,915	3,021	+3.6
合計	量	2,603,670	2,507,435	2,531,413	2,605,776	2,819,630	+8.2
	額	663,085	623,730	629,271	647,920	702,329	+8.4

表6 2005年1～6月の月別ねじ生産推移

単位：同上（社）日本ねじ工業協会資料より）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	1～6月	
ボルト	量	132,593	145,570	154,811	136,948	130,185	150,469	850,576
	額	29,038	31,589	34,987	28,348	29,552	34,006	187,520
ナット	量	68,882	73,067	80,840	76,630	69,906	77,570	446,895
	額	19,425	21,116	23,120	21,916	19,853	22,650	128,080
小ねじ	量	22,518	24,546	26,997	26,094	22,761	26,073	148,989
	額	8,084	8,591	9,665	9,133	8,422	9,021	52,916
木ねじ	量	546	551	633	650	528	569	3,477
	額	258	264	308	290	249	263	1,632
合計	量	224,539	243,734	263,281	240,322	223,380	254,681	1,449,937
	額	56,805	61,560	68,080	59,687	58,076	65,940	370,148

って若干の変化があるものの、しかし事業所数、従業員数についてはともに年々減少の傾向でこうした状況にあるのが我が国のねじ工業の特徴的傾向といえます。

ともあれ平成15年（2003年）は、事業所数、従業員数それに出荷額の何れも前年比プラスとなり、それまでの低迷状態からようやく回復へ向う年となりました。しかし、出荷額がピークの1991年当時からみると2003年の出荷額は67%の水準に止まっているのが現実です（表3）。

では、2004年はどのような状況なのか。工業統計表は2年遅れで発行されますので、2004年のねじ生産動向については表5の(社)日本ねじ工業協会調査資料をもとにみますと前年比8.4%増の7,023億2,900万円と3年続けての回復増加となり、1997年以来7年ぶりに7千億円台の水準に回復した年となりました。2005年に入ってから、1~6月までの上半期累計実績では前年同期比7.8%増3,701億円強へと増加の傾向を示しています。今年後半のねじ産業動向についても、前述のような産業動向から推察してみるとおそらく上向きで推移するものとみられます。

さて、2003年工業統計表に戻って表4から同年における品種別の出荷状況をみますと、まず統計分類5品目合計の出荷は金額で前年比5.3%増の7,817億3,200万円、数量で同2.3%増の231万9,749トンとなっています。品種別では、ボルト・ナットが金額で前年比3.9%増の5,393億1,100万円、数量で同1.8%増の201万8,760トンとなり、小ねじ類は8.5%増の872億4,400万円、数量で6.5%増の22万8,010トンに、リベットは6.2%増の255億1,000万円、数量で2.2%増の7万2,979トン、という状況です。数量統計のないねじ関連製品は6.0%増の1,032億4,300万円、同様の座金類は21.9%増の大幅な増加で264億2,400万円となっています。出荷額は何れの品目ともに前年比プラスを示しています。また、数量統計のあるボルト・ナット、小ねじ類およびリベットの3品目何れもが前年比数量の伸び率よりも金額の伸び率の方が高くなっているのは、付加価値の高い製品の生産に注力されてきたことを裏付けているものと思われます。表1にみるねじ産業の付加価値の項目にも示されているように、2003年の付加価値額は前年比8.0%増となっています。

なお、表4の出荷額合計と表1の出荷額が一致していないのは、表1の出荷額には製造品出荷額に加工賃収入額と製造工程から出たくず及び廃物の出荷額などの収入額を含んでいるためです。

品目別の出荷(生産)状況については、工業統計表の場合はボルトとナットが合計されており、その内訳の動向が不明ですが、表5の資料ではボルト、ナットが分類され、小ねじ(タッピンねじを含む)、木ねじの4品目の動向がわかります。

表5から2004年のねじ生産動向をみると、この4品目全体では金額で前年比8.4%増の7,023億2,900万円、数量で同8.2%増の281万9,630トンとなっています。ボルトは9.5%増の3,570億6,400万円、数量も同様に9.5%増の166万9,042トン、ナットは7.6%増の2,395億5,100万円、数量は7.0%増の85万1,978トンであり、続いて小ねじ(タッピンねじを含む)は6.7%増の1,026億9,300万円、数量は4.5%増の29万1,969トン、それに木ねじが3.6%増の30億2,100万円、数量は増減なく6,641トン、という生産の状況になっています。2004年は4品目すべての生産が金額および数量ともにプラス(前年はナットが数量でマイナスに、小ねじが数量と金額ともマイナスに)となり、中でもボルトの伸びが数量・金額ともに9.5%増と高くなっている

のが目立ちます。ナットの回復も同様に大きな数値を示しています。

2005年のねじ生産の動向では、1～6月期実績でみた場合、前年同期の3,433億1,600万円に対して3,701億4,800万円と7.8%増、数量では前年同期の138万356トンに対して144万9,937トンと5.0%増であり、金額および数量の何れもプラスとなっています。品目別ではボルトが前年同期比7.4%増の1,875億2千万円、数量では同4.3%増の85万576トン、ナットは同10.3%増の1,280億8千万円、数量で同7.4%増の44万6,895トン、小ねじ（タッピンねじを含む）が同3.6%増の529億1,600万円、数量で同2.4%増の14万8,989トン、木ねじは同14.4%増の16億3,200万円、数量で同5.8%増の3,477トンという状況になっています。今年に入ってから全品目が、数量および金額ともにプラスを示しています。

2 ねじの輸出

我が国のねじ輸出は2002年に過去最高の1,520億円に達しましたが、03年も1,553億円、昨年04年も前年比12.8%増の1,752億円、数量で同14.4%増の227,000トンと3年連続で増加しています（なお、これまでの最高輸出は金額で1997年の1,400億円、数量では1977年の384,000トンです）。数量でも1988年以来、実に16年ぶりに20万トン台に乗りました。2005年上半期（1～6月）の輸出実績も前年同期比8.5%増の910億円、数量で同10.4%増の120,700トン余を示し増勢が続いています。

このように我が国のねじ輸出が増勢に転じているのは世界的な景気の回復と急成長を引き続き遂げている中国の市場向け、それにタイ、インドネシア、台湾、マレーシアその他諸国・地域への輸出が増伸していることを反映しているものです。この輸出の伸びの中には、これらの諸国・地域に進出している日本の自動車メーカーや家電メーカー等への納入分も今では相当量に達しているものと推測されます。かつての輸出は米国を中心に当該国のねじ輸入専門のインポーター、ディストリビューター、ホールセラー、或はねじユーザー、ねじメーカーなど向けが主でありましたが、我が国ねじユーザーの海外進出による現地生産が拡大し、こうしたグローバル化の進展に伴う現地進出企業への部品納入が高まっていることによるものでしょう。進出企業による現地調達率の向上から部品関連企業を現地に招致したり、当該諸国の部品メーカーからの調達率の義務付けとか、さまざまなケースがありますが、何れにしても必要なねじ部品の全品目を現地調達することはできないはずですし、日本から輸出しなければならない品目や数量もかなりあるはずです。さらにグローバル化の進行も背景として自由貿易協定（FTA）締結による関税撤廃に向けての動きなど、ねじ輸出（貿易）をとり巻く今後の情勢も次第に変貌しつつあるともいえるようです。

表7 ねじの輸出（品目別）

単位：重量トン，金額百万円（貿易統計より）

		2003年	2004年	04/03増減%	2005.1～6
鉄鋼製ボルト	重量	103,104.4	118,011.9	+14.5	62,438.6
	金額	57,812.4	66,056.1	+14.3	34,506.9
ステンレスボルト	重量	1,606.3	1,748.7	+8.9	884.0
	金額	2,069.4	2,458.0	+18.8	1,306.3
鉄鋼製ナット	重量	46,521.7	51,383.5	+10.5	28,952.5
	金額	33,368.1	36,547.8	+9.5	19,363.5
ステンレスナット	重量	1,100.1	1,236.0	+12.4	550.7
	金額	1,713.1	1,925.1	+12.4	920.1
鉄鋼製タッピンねじ	重量	9,707.9	10,418.0	+7.3	4,979.2
	金額	8,268.5	8,493.2	+2.7	4,090.6
鉄鋼製木ねじ	重量	280.4	331.0	+18.0	181.5
	金額	317.6	325.4	+2.5	161.8
鉄鋼製その他のねじ	重量	15,054.9	16,722.4	+11.1	8,497.3
	金額	24,349.1	27,296.9	+12.1	13,930.8
鉄鋼製その他ねじ付品	重量	1,156.5	1,528.1	+36.8	905.9
	金額	1,483.6	1,847.1	+24.5	969.9
鉄鋼製リベット	重量	2,106.9	2,361.2	+12.1	1,166.5
	金額	2,619.0	2,876.4	+9.8	1,479.9
鉄鋼製ねじ無製品	重量	5,503.3	6,840.9	+24.3	3,815.8
	金額	7,449.0	8,159.8	+9.5	4,156.9
鉄鋼製コーチねじ	重量	125.4	217.4	+73.4	154.9
	金額	164.8	316.6	+92.1	284.7
鉄鋼製スクリューフック	重量	24.9	30.7	+23.3	6.2
	金額	69.2	100.9	+45.8	15.9
鉄鋼製ばね座金	重量	1,672.8	2,147.6	+28.4	1,087.2
	金額	2,203.8	2,984.5	+35.4	1,506.3
鉄鋼製平座金	重量	9,347.5	12,729.0	+36.2	6,244.6
	金額	10,931.0	13,373.7	+22.3	6,886.0
鉄鋼製コッタピン	重量	769.4	637.7	-17.1	335.1
	金額	1,333.4	1,241.8	-6.9	653.6
銅製品	重量	537.3	752.8	+40.1	539.3
	金額	1,155.7	1,212.2	+4.9	770.8
総計	重量	198,619.7	227,150.9	+14.4	120,739.3
	金額	155,307.7	175,215.5	+12.8	91,004.0

こうした状況下でねじ輸出は拡大をみせていますが，2004年の輸出動向は前述のように数量・金額ともに前年比2桁増の大きな伸びを示しました。おもな輸出先国・地域（表8）で前年比減となったのは香港，フィリピン，オーストラリアだけで，主力の米国向けは前年比8.6%増の89,751トンとなりました。対米輸出比率は03年

表8 ねじの輸出（主要国別、銅製品を除く）

単位：トン（貿易統計より）

	2003年	2004年	04/03増減%	国別比率	2005.1~6
総計	198,082.4	226,398.1	+14.3	100.0	120,200.0
米国	82,612.8	89,751.9	+8.6	39.6	47,326.5
欧州	30,479.5	33,062.7	+8.5	14.6	16,685.5
韓国	1,330.3	1,672.7	+25.7	0.7	971.6
中国	14,982.4	19,853.5	+32.5	8.8	10,446.2
台湾	5,230.0	8,309.2	+58.9	3.7	2,840.6
香港	3,514.6	3,376.0	-3.9	1.5	1,622.4
タイ	15,141.9	20,947.7	+38.3	9.3	15,292.7
シンガポール	2,530.0	2,985.0	+18.0	1.3	1,343.8
マレーシア	5,980.6	6,250.1	+4.5	2.8	2,990.2
インドネシア	9,932.5	12,142.4	+22.2	5.4	6,547.4
フィリピン	2,849.4	2,718.3	-4.6	1.2	1,420.0
カナダ	4,790.0	4,192.3	-12.5	1.9	2,017.0
メキシコ	4,225.8	4,851.8	+14.8	2.1	2,570.1
ブラジル	1,813.5	2,335.0	+28.8	1.0	1,390.0
インド	1,855.8	2,708.6	+46.0	1.2	1,477.2
オーストラリア	3,965.6	3,337.2	-15.8	1.5	1,677.3
他	6,847.7	7,903.7	+15.4	3.5	3,581.5

表9 ねじ輸出5年間の推移

（貿易統計より）

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年
数量(トン)	173,557.2	163,703.1	182,770.6	198,619.7	227,150.9
%	100.0	94.3	105.3	114.4	130.9
金額(百万円)	139,753.5	135,540.4	152,087.0	155,307.7	175,215.5
%	100.0	97.0	108.8	111.1	125.4

の41.7%から04年は39.6%へと2.1ポイント下がりましたが、その分他の諸国・地域への輸出が増加していることとなります。第二位はタイ向けで前年比38.3%増の20,947トン、第三位は中国向けで同32.5%増の19,853トン、第四位はインドネシア向けで同22.2%増の12,142トン、第五位は台湾向けで同58.9%増の8,309トン、第六位がマレーシア向けで4.5%増の6,250トン、以下メキシコ、カナダなどと続いています。ヨーロッパ諸国向けは同8.5%増の33,062トンとなっています。また、インド向けも同46.0%増の2,700トン余と増えています。

2004年ねじ輸出の品目別の状況では、全16品目中マイナスとなったのは鉄鋼製コッターピンだけで、これを除く全ての品目が前年比プラスとなっています（表7）。

順にみていきますと、鉄鋼製ボルトは前年比14.5%増の118,011トン（金額で同14.3%増の660億5,600万円）で、数量および金額ともに2桁増となりました。鉄鋼製ナットも10.5%増の51,383トン（同9.5%増の365億4,700万円）と増伸。

ステンレス製ボルト・ナットは、ステンレスボルトが8.9%増の1,748トン（同18.8%増の24億5,800万円）、ステンレスナットが12.4%増の1,236トン（同12.4%増の19億2,500万円）と何れも増加、ステンレスボルトは金額の伸び率が数量の伸びに比べ高くなっています。

鉄鋼製タッピンねじは7.3%増の10,418トン（同2.7%増の84億9,300万円）となり、4年ぶりに1万トン台に回復をみせています。鉄鋼製その他のねじは11.1%増の16,722トン（同12.1%増の272億9,600万円）と数量・金額ともに2桁増。鉄鋼製その他のねじ付製品は36.8%増の1,528トン（同24.5%増の18億4,700万円）と大きな伸びに。鉄鋼製ねじ無し製品も24.3%増の6,840トン（同9.5%増の81億5,900万円）と増加。鉄鋼製リベットは12.1%増の2,361トン（同9.8%増の28億7,600万円）と増伸しています。

ワッシャ類では、鉄鋼製ばね座金が28.4%増の2,147トン（同35.4%増の29億8,400万円）と増加、鉄鋼製平座金も36.2%増の12,729トン（同22.3%増の133億7,300万円）と大きな伸びを示しました。

また銅製品のボルト、ナット、ねじ類も40.1%増の752トン（同4.9%増の12億1,200万円）と増えています。

2005年上半期（1～6月）のねじ輸出も前述のように増伸していますが、対米向けが前年同期比10.4%増の47,326トン、タイ向けは同70.1%増の15,292トンと著増し、中国向けは同3.1%増の10,446トン、インドネシア向けは同13.0%増の6,547トンとそれぞれ増加。しかし、台湾向けは同マイナス40.6%と大幅に減少。マレーシア向けは同6.2%増の2,990トン、などとなっています。国別ではタイ向け輸出の著しい伸びが目立っています。また、品目別で鉄鋼製ナットが前年同期比18.0%増の28,952トンと主要品目の中では大きな伸びを示しているのが目立ちます。

3 ねじの輸入

我が国のねじ貿易は前項のように輸出も増えていますが、輸入についても年々増加しており（表12）、2004年の輸入実績では初めて500億円台に乗りました。2005年上半期（1～6月）の輸入実績も引き続き増加しています。輸入数量での調達先は2001年以降は中国がトップで、それまでは第1位であった台湾からの輸入を引き離しつつあります。この中国と台湾をはじめとしたアジア地域からの輸入量が97%強を占めていますが、また、数量は未だ多くはないもののベトナムからの輸入が増えつつあるのも注目されるひとつです。

まず、2004年におけるねじ輸入の動向からみますと、数量では前年比14.5%増の174,704トン、金額は同17.3%増の501億4,600万円を示しました。数量ベースでは

表10 ねじの輸入（品目別）

単位：重量トン，金額百万円（貿易統計より）

		2003年	2004年	04/03増減%	2005.1～6
鉄鋼製ボルト	重量	54,155.3	62,325.8	+15.1	33,682.3
	金額	10,012.0	11,220.3	+12.1	3,558.8
ステンレスボルト	重量	8,886.6	9,743.6	+9.6	5,460.4
	金額	3,095.7	3,919.2	+26.6	2,331.3
鉄鋼製ナット	重量	21,618.3	25,351.5	+17.3	13,613.9
	金額	6,964.4	7,943.6	+14.1	4,500.0
ステンレスナット	重量	6,182.7	6,529.1	+5.6	3,313.6
	金額	3,025.0	3,790.6	+25.3	2,101.4
鉄鋼製タッピンねじ	重量	8,781.8	8,310.0	-5.4	4,964.3
	金額	1,929.5	2,018.1	+4.6	1,195.3
鉄鋼製木ねじ	重量	15,172.3	16,052.6	+5.8	8,536.3
	金額	2,802.2	3,010.9	+7.4	1,613.1
鉄鋼製その他のねじ	重量	14,279.5	18,459.6	+29.3	10,996.5
	金額	5,413.8	6,772.7	+25.1	3,986.7
鉄鋼製その他ねじ付品	重量	3,737.4	4,487.7	+20.1	2,005.4
	金額	1,462.5	1,674.4	+14.5	929.4
鉄鋼製リベット	重量	884.1	1,138.8	+28.8	741.4
	金額	468.6	666.2	+42.2	349.5
鉄鋼製ねじ無製品	重量	2,025.3	2,648.2	+30.8	1,519.7
	金額	2,353.0	2,945.6	+25.2	1,809.4
鉄鋼製コーチねじ	重量	1,464.1	2,412.3	+64.8	881.1
	金額	174.9	1,464.1	+85.1	130.0
鉄鋼製スクリューフック	重量	274.6	332.5	+21.1	175.2
	金額	100.2	129.2	+28.9	83.6
鉄鋼製ばね座金	重量	3,923.5	4,553.0	+16.0	2,466.7
	金額	742.9	903.0	+21.6	488.8
鉄鋼製平座金	重量	10,050.3	10,837.6	+7.8	6,589.6
	金額	2,914.6	3,192.5	+9.5	2,143.4
鉄鋼製コッタピン	重量	169.9	182.4	+7.4	96.3
	金額	206.5	217.4	+5.3	115.3
銅製品	重量	1,039.2	1,340.1	+29.0	816.0
	金額	1,082.3	1,419.0	+31.1	911.2
総計	重量	152,644.9	174,704.8	+14.5	95,858.7
	金額	42,748.1	50,146.4	+17.3	29,247.2

中国からの輸入が第一位で前年比16.6%増の86,233トンとなり国別比率も49.7%とほぼ輸入ねじの半分を占めるまでになっています（前年は48.8%の比率）。これに次ぐ台湾からの輸入は同9.5%増の60,275トンで国別比率は34.8%（同36.3%）に低下。何れにしてもこの中国と台湾からの輸入で，我が国全ねじ輸入量の84.5%と

表11 ねじの輸入（主要国別，銅製品を除く）

単位：トン（貿易統計より）

	2003年	2004年	04/03増減%	国別比率	2005.1～6
総計	151,605.7	173,364.7	+14.4	100.0	95,042.7
米 国	1,147.0	1,055.6	-8.0	0.6	538.6
欧 州	1,879.8	2,232.7	+18.8	1.3	1,104.7
韓 国	7,172.1	7,839.3	+9.3	4.5	4,645.5
中 国	73,954.4	86,233.2	+16.6	49.7	51,517.7
台 湾	55,055.6	60,275.4	+9.5	34.8	29,361.9
タ イ	3,370.1	4,126.1	+22.4	2.4	1,805.2
シンガポール	24.6	26.1	+6.1	0.0	4.8
マレーシア	5,638.9	6,754.4	+19.8	3.9	3,071.3
インドネシア	2,204.7	2,571.9	+16.7	1.5	1,447.0
ベトナム	723.0	1,544.7	+213.7	0.9	1,281.2
他	435.5	705.3	+62.0	0.4	264.8

表12 ねじ輸入5年間の推移

（貿易統計より）

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年
数量(トン)	112,341.4	124,743.5	127,253.3	152,644.9	174,704.8
%	100.0	111.0	113.3	135.9	155.5
金額(百万円)	33,224.6	38,489.2	38,439.6	42,748.1	50,146.4
%	100.0	115.8	115.7	128.7	150.9

極めて高い比率を占めているのが特徴です。続いて，韓国，マレーシア，タイ，インドネシア，ベトナムなどのアジア諸国から輸入されており，米国からの輸入は8.0%減の1,055トンに，ヨーロッパ諸国からの輸入では18.8%増の2,232トンとなっています。

品目別では，鉄鋼製タッピンねじの輸入が前年比5.4%減の8,310トン（金額では同4.6%増の20億1,800万円）と数量でマイナスとなった以外は15全品目が数量および金額ともに増加しています。鉄鋼製ボルトは15.1%増の62,325トン（同12.1%増の112億2千万円），鉄鋼製ナットは17.3%増の25,351トン（同14.1%増の79億4,300万円），ステンレスボルトは9.6%増の9,743トン（同26.6%増の39億1,900万円），ステンレスナットは5.6%増の6,529トン（同25.3%増の37億9千万円）と増加。ステンレスボルト・ナットの輸入価格が上昇しています。

鉄鋼製タッピンねじは前記のとおり数量でマイナスに金額でプラスを示しましたが，鉄鋼製木ねじは相変わらず増加を続けており5.8%増の16,052トン（同7.4%増の30億1千万円）に達しています。

鉄鋼製その他ねじは29.3%増の18,459トン（同25.1%増の67億7,200万円），鉄鋼製その他ねじ付製品も20.1%増の4,487トン（同14.5%増の16億7,400万円），また，

鉄鋼製ねじ無し製品も30.8%増の2,648トン（同25.2%増の29億4,500万円）と増加。鉄鋼製リベットも28.8%増の1,138トン（同42.2%増の6億6,600万円）となっています。また、鉄鋼製コーチねじが64.8%増の2,412トン（同85.1%増の14億6,400万円）と伸びており、鉄鋼製コッターピン類も7.4%増の182トン（同5.3%増の2億1,700万円）が輸入されています。

ワッシャ類では、ばね座金が16.0%増の4,553トン（同21.6%増の9億300万円）、平座金が7.8%増の10,837トン（同9.5%増の31億9,200万円）に。また、銅製品が29.0%増の1,340トン（同31.1%増の14億1,900万円）となっています。

2005年上半期（1～6月）のねじ輸入では、前年同期比6.5%増の95,858トン、金額で21.2%増の292億4,700万円となっています。この上半期については中国からの輸入が数量で全世界からの輸入の54.2%と上昇し過半を占め、第二位の台湾からの輸入は30.9%に低下、中国製品の増加ぶりが目を引きまします。この中国と台湾からの輸入比率も全ねじ輸入量の85.1%を占めています。

4 ねじの流通

ねじ産業はメーカーと商業者に大別されますが、ねじの流通を担う商業者によって取扱われるねじ類を金額ベースで見ますと生産・出荷額のおよそ50%前後に達しています。流通商社（卸問屋、直需商社）は多種多様なねじ及び関連商品を豊富に取扱っており、取引先およびユーザーのさまざまな要望に応える役割を担っている訳です。このねじ流通商社は業界団体に組織化されている企業数で360社ほどをかぞえますが、組合等に未加入の企業も相当数あるものと思われ、また、ねじ専門商社ではないがねじ類を相当量扱っている機械工具商社とか金物店などもあって、これらを合わせるとねじ流通は広範多岐にわたっていると推測されます。

このねじ流通商社の取扱い状況について、商業者団体である日本ねじ商業協同組合連合会（東京、神奈川、愛知、大阪の4地区ねじ商社が加入）の調査資料をもとにみますと、平成15年度（平成15年4月～同16年3月）におけるねじ類及び関連商品の年間取扱販売高は会員363社で3,976億4,400万円となっています。これは前年度比3.2%減ですが、会員数も前年度から4社減少しています。なお、この会員数は年々減少傾向にあります。組合脱退のほか転業や廃業などによるものです。これに伴い、商業者に雇用される従業員数も年々減少をたどり平成15年度では前年度比6.5%減の7,487人と517人の減少幅となっています。

また、1社平均の取扱販売高で見ますと平成15年度は10億8,294万円で前年度比4.8%減、1人当り取扱販売高では5,311万円で前年度比3.4%増となっています。この1人当り取扱高は平成12年度は5,100万円でしたが13年度は4,994万円に減少、

表13 ねじ流通商社の推移（ねじ商連調査資料を参考に作成）

（販売高・百万円）

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
企業数	391	384	374	367	363
%	100.0	98.2	95.7	93.9	92.8
従業員数	8,364	8,076	8,126	8,004	7,487
%	100.0	96.6	97.2	95.7	89.5
販売高	396,463	411,916	405,828	410,971	397,644
%	100.0	103.9	102.4	103.7	100.3

その後14年度5,134万円、15年度5,311万円と回復をみせていますが、景気低迷下でリストラを実施した企業もあり、また付加価値の良い商品構成への切換えとか恐らくこうした企業努力によって1人当りの取扱高が上向きに転じてきたとも言えるようです。平成15年度（2003年度）は表1にみるようにねじメーカーにおける付加価値額も回復に転じた年となっています。ただ、平成16年度も同連合会組織の会員が減少の傾向にあって、今後の動向はどう推移していくかは実態調査の結果を待たなければなりません。しかし、その後の材料価格の高騰による製品値上げを進めなければならない状況下で、逆にユーザーからの厳しいコストダウンの要請と重なって、ねじ流通商社をとりまく環境は従来にも増して厳しさを増しているのが最近の現状であるといつてよいと思います。

さて、平成15年度の同調査に戻りますが、同年度の249社における国内販売と輸出の割合では国内が2,270億3,280万円（95.3%）、輸出が112億5,623万円（4.7%）となっています。輸出比率は前年度が3.2%であったので1.5ポイントの上昇となり、海外進出ユーザー向けを含む輸出に注力されていることが伺えます。

また、ねじ流通商社の品目別取扱い比率では、市販用ねじ類が41%、特注品ねじ類（加工品）が36%、その他（ねじ類以外）23%という状況です。市販用ねじ類つまり標準品の取扱いは4割程度であって、図面物などユーザー指定による受注製品ほかの取扱い比率が高いことを示しており、付加価値の高い商品取扱いを指向している状況が伺えるといえます。

ねじ需要産業の動向（参考）

我が国の機械工業における最近の生産動向は堅調な状況を示しつつあり、また建築関連でも新設住宅着工戸数が平成15年以降は増加の傾向で推移するなど、ねじ需要を支える産業各分野の動きにはようやく明るさがでてきているといえます。自動車生産は平成14年に1千万台に回復して以降増加が続いており、工作機械も平成14

▷自動車

(台)

	乗 用 車	軽乗用車	トラック	軽トラック	バ ス	計
平成14年	7,308,527	1,309,830	1,054,038	512,373	66,321	10,251,089
15年	7,188,108	1,290,220	1,211,042	524,427	61,074	10,274,871
16年	7,353,710	1,366,675	1,202,985	514,202	60,442	10,498,014
17年 1月	607,178	111,064	89,969	41,419	4,846	854,476
2月	676,831	129,825	99,701	45,077	6,756	958,190
3月	735,308	150,489	111,644	54,079	7,315	1,058,835
4月	610,572	113,338	97,091	42,683	6,258	869,942
5月	540,763	105,229	89,858	44,651	5,426	785,927
6月	660,539	121,713	108,830	51,603	7,287	949,972
1～6月計	3,831,191	731,658	597,093	279,512	37,888	5,477,342

▷工作機械，他

(台)

	工 作 機 械	油圧・空圧機器	はん用内燃機関	フォークリフトトラック
平成14年	55,809	48,488,852	6,941,854	101,641
15年	65,861	59,700,118	7,292,675	109,454
16年	78,757	72,641,763	7,344,560	123,453
17年 1月	6,773	5,196,210	561,744	9,285
2月	7,112	5,348,565	697,218	10,945
3月	8,641	5,942,783	721,004	13,128
4月	7,097	5,915,247	646,498	11,274
5月	7,064	5,468,799	575,484	10,578
6月	8,236	6,090,524	705,600	12,973
1～6月計	44,923	33,962,128	3,907,548	68,183

年を底に設備投資の回復から生産が拡大を続け、また自動車の好調に伴うカーナビゲーションシステムなどの関連商品も活況を示し、景況回復に伴う物流荷役作業用のフォークリフトトラックなども平成15年以降増産が続いています。家電関連では液晶テレビが著増しており、またプラズマテレビも本格生産を迎えるなど注目される商品がでています。しかし、家電関連商品でもデジタルカメラやビデオカメラ、DVDビデオなどこれまでの成長商品が横ばいか生産減になり、電気冷蔵庫や電気洗濯機も海外生産化の影響もあるとみられ頭打ちのような生産状況で、IT関連の代表的商品の携帯電話、パソコンも年度によって増減変化している状況です。品目によって生産状況が大きく異なっているのが家電関連商品の近年の特徴的な傾向となっています。これらの機械工業製品の動向を経済産業省の生産動態調査などの資料をもとに実数値でみたのが以下の付表です。

平成16年の自動車（四輪車）の生産は1,049万8,014台を示し前年比2.2%の増加となっており、今年上半期も547万7,342台で前年同期（530万4,135台）比3.3%増

▷デジタルカメラ、複写機など

(台)

	デジタルカメラ	ビデオカメラ	デジタル複写機	フルカラー複写機
平成14年	16,909,470	10,014,891	582,586	294,733
15年	25,084,449	11,876,507	525,055	363,988
16年	29,199,755	11,956,514	445,032	453,247
17年 1月	1,706,804	780,301	24,623	38,441
2月	2,014,562	1,088,248	30,426	46,752
3月	2,458,577	1,174,486	41,573	58,963
4月	2,424,478	1,307,278	26,529	42,816
5月	2,155,926	1,050,421	23,103	46,814
6月	2,188,811	1,033,355	22,971	44,165
1～6月計	12,949,158	6,434,089	169,225	277,951

▷パソコン、携帯電話ほか

	パソコン	携帯電話	DVDビデオ	カーナビ
平成14年	9,448,408台	46,072千台	2,340,100台	3,027,298台
15年	8,786,606	59,460	3,284,086	3,811,379
16年	9,059,350	49,487	3,071,818	4,706,830
17年 1月	737,136	3,260	105,324	367,389
2月	743,802	4,536	103,370	407,911
3月	1,033,091	4,732	140,854	490,820
4月	741,019	3,483	207,141	430,953
5月	630,716	3,309	176,944	444,552
6月	732,693	4,463	200,308	504,951
1～6月計	4,618,457	23,783	933,941	2,646,576

▷家電

	液晶テレビ	電気冷蔵庫	電気洗濯機	セパレート型エアコン
平成14年	1,649,986台	3,316千台	3,524千台	5,894,342台
15年	1,833,445	2,859	3,133	5,420,771
16年	2,665,056	3,019	2,848	5,537,136
17年 1月	175,831	150	210	306,028
2月	244,699	211	229	440,024
3月	295,175	194	272	514,731
4月	284,755	267	254	666,764
5月	322,081	264	207	736,542
6月	383,234	317	233	855,545
1～6月計	1,705,775	1,403	1,405	3,519,634

と堅調に推移しています。また7月生産は90万2,074台で前月比5.0%減、前年同月(92万5,703台)比2.6%減、8月生産は70万630台で前月比は22.3%減、前年同月(69万8,105台)比0.4%増。自動車の生産は8月は例年減少していますが、経済産

業省の9月製造工業生産予測調査では輸送機械工業も上昇の見込みとなっています。なお今年10月21～11月6日まで第39回東京モーターショーが前回より会期を4日間増やして幕張メッセで開催され、自動車の販売拡大に大きな期待が寄せられています。

工作機械の生産は、平成15年の伸びに続いて16年も前年比19.6%増の7万8,757台と大幅に増伸し、今年上半期も前年同期（3万8,166台）比17.7%増の4万4,923台と増加しています。7月生産は7,774台で前月比5.6%減、前年同月比20.1%増という生産の状況です。

荷役作業用等のフォークリフトトラックの平成16年生産は12万3,453台で前年比12.8%増と2桁の伸びを示し、今年上半期も前年同期比16.3%増の6万8,183台へとさらに増伸。7月生産は1万2,037台で前月比は7.2%減、前年同月比11.0%増、8月は1万490台で前月比12.9%減、前年同月比11.0%増と推移。

カーナビゲーションシステムの平成16年生産は470万6,830台で前年比23.5%増の大幅な伸びとなり、今年上半期も264万6,576台で前年同期比17.3%の増加。7月生産は48万8,157台で前月比は3.3%減、前年同月比11.5%増、8月は38万6,487台で前月比20.8%減、前年同月比は23.8%増に。

液晶テレビの平成16年生産は266万5,056台で前年比45.4%増の大幅増を示し、今年上半期も170万5,775台で前年同期比46.2%増と同様に大幅な増伸。7月生産は36万4,281台で前月比は4.9%減、前年同月比は28.2%増、8月は36万7,980台で前月比1.0%増、前年同月比は76.8%増となっています。また、プラズマテレビが今年から新統計品目となり平成17年1～6月上半期の生産は35万5,946台（814億7,700万円）となっています。7月は5万2,136台の生産で、8月は6万5,453台と前月比25.5%増の生産状況です。

デジタルカメラは平成16年生産が2,919万9,755台で前年比16.4%増、今年上半期生産は1,294万9,158台で前年同期比1.0%増。7月生産は203万7,578台で前月比6.9%減、前年同月比12.5%減、8月生産は193万4,252台で前月比5.1%減、前年同月比5.3%減と減少の傾向を示しています。

パソコンの平成16年生産は905万9,350台で前年比3.1%増、今年上半期生産は461万8,457台で前年同期比0.04%微減、7月生産は63万3,544台で前月比13.5%減、前年同月比5.0%減、8月は69万5,534台で前月比9.8%増、前年同月比15.6%増。なお、パソコンの7月生産63万3,544台の内訳はノートブック型が35万6,100台（56.2%）、デスクトップ型が26万6,982台（42.1%）、サーバ用が1万462台（1.7%）となっており、ノートブック型が過半数を占めています。

携帯電話は音楽や映像など機能向上商品が次々と生まれていますが平成16年生産は4,948万台で前年比16.8%減、今年上半期生産は2,378万台で前年同期比8.0%減、7

月生産は389万台で前月比12.8%減，前年同月比12.5%減，8月は343万台で前月比11.8%減，前年同月比8.3%減という状況です。

平成16年生産の家電関連製品のうち，DVDビデオは307万1,818台で前年比6.5%減，今年上半期は93万3,941台で前年同期比30.1%の大幅減に。また，電気冷蔵庫は301万9,000台で前年比5.6%増，今年上半期は140万3,000台で前年同期比5.8%減，電気洗濯機は284万8,000台で前年比9.1%減，今年上半期は140万5,000台で前年同期比10.4%減という状況。セパレート型エアコンは553万7,000台で前年比2.2%増，今年上半期は351万9,000台で2.5%増となっており，同品目は猛暑と買替需要とで堅調な生産状況にあると同業界の発表，下期は例年生産台数が減少しています。

複写機の生産はデジタル式が減少し，フルカラー式が増加しています。平成16年のデジタル式は44万5,032台で前年比15.2%減，今年上半期も16万9,225台で前年同期比27.2%減，これに対してフルカラー式は45万3,247台で前年比24.5%増，今年上半期も27万7,951台で前年同期比26.4%増と増伸しています。

家電およびIT通信関連商品は今，ユビキタスネットワーク社会の実現に向けて新しいテクノロジーの開発が業界で様々に進められていますが，こうした新分野の動向にも大いに注目していきたいと思えます。

Note

イワタボルトはあなたの会社に 最適締結システムを提供します

本社 〒141 8508 東京都品川区西五反田 2 32 4
☎03 (3493) 0211 (代表) FAX 03 (3493) 2096
☎03 (3493) 0221 (代表)

五反田営業所 ☎03 (3493) 0251
本社SOFI課 ☎03 (3493) 0254
本社海外課 ☎03 (3493) 0252
本社資材課 ☎03 (3493) 0214
技術開発課

栃木工場 〒329 2331 栃木県塩谷郡塩谷町大字田所字八汐1601 6
☎0287 (45) 1051 (代表) FAX 0287 (45) 1053
☎021 0902 岩手県一関市萩荘字打ノ目 244 1
☎0191 (24) 4110 (代表) FAX 0191 (24) 4180
☎990 0813 山形県山形市捨町 3 8 34
☎023 (681) 1170 (代表) FAX 023 (681) 1171
☎981 1224 宮城県名取市増田 6 3 46
☎022 (384) 0265 (代表) FAX 022 (384) 0694
☎963 0111 福島県郡山市安積町荒井字苜谷地41 1
☎024 (945) 9610 (代表) FAX 024 (945) 9605
☎320 0071 栃木県宇都宮市野沢町字桜田372 13
☎028 (665) 4661 (代表) FAX 028 (665) 4662
☎321 3325 栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台56 2ホシダ開発ビル
☎028 (677) 4721 (代表) FAX 028 (677) 4719
☎386 0005 長野県上田市古里 29 23
☎0268 (26) 1295 (代表) FAX 0268 (26) 1259
☎370 3524 群馬県群馬郡群馬町大字中泉 621 6
☎027 (372) 4361 (代表) FAX 027 (372) 4366
☎373 0841 群馬県太田市岩瀬川町 113 3
☎0276 (46) 1796 (代表) FAX 0276 (46) 1764
☎364 0013 埼玉県北本市中丸 4 72 番地
☎048 (591) 2212 (代表) FAX 048 (591) 2261
☎350 1144 埼玉県川越市福荷町 15 1
☎049 (244) 1671 (代表) FAX 049 (244) 1745
☎305 0045 茨城県つくば市梅園 2 27 25
☎029 (855) 0764 (代表) FAX 029 (855) 0769

千葉営業所 〒292 0834 千葉県木更津市潮見 6 10
☎0438 (37) 3094 (代表) FAX 0438 (37) 3194

多摩営業所 〒196 0032 東京都昭島市郷地町 2 38 3
☎042 (541) 5534 (代表) FAX 042 (541) 6416
☎212 0016 神奈川県川崎市幸区南幸町 2 72 1
☎044 (522) 4101 (代表) FAX 044 (522) 4106
☎243 0203 神奈川県厚木市下荻野518番地
☎046 (241) 7021 (代表) FAX 046 (241) 7023
☎252 0804 神奈川県藤沢市湘南台 1 21 5
☎0466 (44) 1277 (代表) FAX 0466 (44) 8816
☎237 0072 神奈川県横須賀市長浦町 1 2
☎046 (823) 2724 (代表) FAX 046 (823) 1657

富士営業所 〒419 0201 静岡県富士市厚原 367 7
☎0545 (71) 3588 (代表) FAX 0545 (71) 2538
☎430 0831 静岡県浜松市御給町 179 1
☎053 (425) 1118 (代表) FAX 053 (425) 9448
☎448 0803 愛知県刈谷市野田町新上納 29 1
☎0566 (24) 6321 (代表) FAX 0566 (24) 6326
☎452 0847 愛知県名古屋市区西区野南町78番地
☎052 (502) 7761 (代表) FAX 052 (502) 7763
☎510 0874 三重県四日市市河原田町藤市 916 1
☎0593 (47) 1941 (代表) FAX 0593 (47) 1867
☎581 0814 大阪府八尾市楠根町 1 丁目 1 番地
☎0729 (23) 7910 (代表) FAX 0729 (23) 7911
☎824 0058 福岡県行橋市長木字帽子形 372 1
☎0930 (23) 9444 (代表) FAX 0930 (23) 9451
☎839 0808 福岡県久留米市東合川新町 11 13
☎0942 (45) 3451 (代表) FAX 0942 (45) 3452

IWATA BOLT HONG KONG CO., LTD.
UNIT B, 1/F, KOON WAH MIRROR GROUP BUILDING, NO.2 YUEN SHUN CIRCUIT, YUEN CHAU KOK, SHATIN, N.T. HONG KONG.
☎852 2649 9110 FAX 852 2646 6119

IWATA BOLT (SHANGHAI) CO., LTD.
PART B, NO.39 BUILDING, 461 HUA JING ROAD, SHANGHAI WAIGAOQIAO FREE TRADE ZONE, P. R. CHINA ZIP 200131
☎86 21 5046 3037 FAX 86 21 5046 3038

IWATA BOLT (SHENZHEN) CO., LTD.
NO.001-12, TONG FU YU INDUSTRIAL PARK, TANG XIA YONG VILLAGE, SONGGANG TOWN, BAO'AN, SHENZHEN, GUANGDONG PROVINCE, P.R. CHINA ZIP 518105
☎86 755 2714 0442 FAX 86 755 2714 0443

IWATA BOLT TRADING (SHENZHEN) CO., LTD.
UNIT A-301 XINGDA LOGISTICS BUILDING NO.3, LANHUA ROAD FUTIAN FREE TRADE ZONE SHENZHEN CHINA P.C. NO.518038
☎86 755 6130 1077 FAX 86 755 6130 1080

IWATA BOLT (THAILAND) CO., LTD.
41/30 BLOCK C-8, BANGNA-TRAD RD. KMS. 16.5,
T. BANGCHALONG, A. BANGPLEE, SAMUTPRAKARN 10540 THAILAND
☎66 2 740 7860 FAX 66 2 740 7863

IWATA BOLT (S) PTE. LTD.
NO.10 BENOI CRESCENT JURONG TOWN SINGAPORE 629973
☎65 6266 3794-3795 FAX 65 6266 2115

IBK FASTENER MALAYSIA SDN. BHD
No.2, JALAN PJS 11/3 BANDAR SUNWAY 46510 PETALING JAYA SELANGOR, MALAYSIA
☎60 3 56380215 FAX 60 3 56380218

IWATA BOLT USA INC. ロサンゼルス工場
7131 ORANGWOOD AVE. GARDEN GROVE, CALIFORNIA 92841-1409 USA
☎1 714 897 0800 FAX.1 714 897 0888

IWATA BOLT USA INC. ロサンゼルス支店
13128 A-2 IMPERIAL HWY SANTA FE SPRINGS, CALIFORNIA 90670 USA
☎1 562 407 3111 FAX.1 562 407 3555

IWATA BOLT USA INC. アトランタ支店
5324 GA HWY 85 SUITE 900 FOREST PARK, GEORGIA 30297 USA
☎1 404 762 8404 FAX.1 404 669 9606

IWATA BOLT USA INC. オハイオ支店
7446 WEBSTER STREET DAYTON, OHIO 45414 USA
☎1 937 454 1277 FAX.1 937 454 1480

IWATA BOLT USA INC. ナッシュビル支店
401 AIRPARK CENTER DRIVE NASHVILLE, TN 37217 USA
☎1 615 365 1201 FAX.1 615 365 1206

IWATA BOLT USA INC. カナダ支店
1199 RINGWELL DRIVE, UNIT B, NEWMARKET, ONTARIO L3Y 7V1 CANADA
☎1 905 953 9433 FAX.1 905 953 0167

IWATA BOLT MEXICANA, S.A. DE C.V.
CALLE PROLONGACION. 610 COLONIA ALAMO INDUSTRIAL, GUADALAJARA, JAL. MEXICO CP 45560
☎52 33 3666 2370 FAX.52 33 3666 2373

ISO14001認定企業・ISO9001認定企業

URL <http://www.iwatbolt.co.jp/>

イワタボルト株式会社